

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域に住み続けたいとの願いが実現できるように、そしてその人らしく元気に安心して暮らしていただけるように職員全員で実践しています。いつでも振り返られるように、見やすいところに掲げてあります。	法人理念や宣言があり「住み慣れた地域で生き生きと自分らしく」というホーム独自の理念も打ち出している。いずれもお年寄りの立場で考えられたもので、馴染みの環境で安心して生活が出来るように支援している。月に1度あるホーム職員会議でも「入居者が何故ホームで暮らさなければいけなくなったのか」など基本的なことから話し合い職員の理解へとつなげている。理念にそぐわないような言動がみられた場合には管理者から注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宅老所と併設でもあり、入居されているお年よりのお知り合いもいらっしゃり、面会も多く地域の一員として認めていただいています。近所のお店や床屋さんなど利用して日常的に交流があります。いろんな面で応援していただいています。	自治会の一員として区費を納め、春の清掃や夏の草刈りなど地域での活動にも参加している。隣市ではあるが生活圏が同じ隣接地区にもホーム便りを配り地元地区同様回覧していただいている。地域の見守り隊により万が一の離設にも協力が得られている。消防団員によるホーム周辺の草刈りも行なわれ、自治センターでの催しにもお誘いがかかる。隣接の宅老所で行なわれる保育園児の手あそびや小学生の発表、童謡の会との交流にも参加している。味噌の仕込みなど折にふれ、法人の他のグループホームの入居者も訪れ親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんや、福祉推進委員さんが時々来られ職員や、お年寄りの方とお話されます。また、不定期ではありますが、「グループホーム便り」を全戸回覧して頂き、認知症へのご理解もきちんとされています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員の方々に事業所を知って頂く事は有意義な事だと感じています。会議での意見はサービス向上に役立っています。具体的な課題について話し合い、理解と支援を頂いています。	家族代表、民生委員、自治会長、長寿会長、消防団分団長、市担当課職員、地域包括支援センター職員と隣接地区の自治会長、民生委員など大勢の方が参加し活発な会議が行われている。ホームの活動報告や予定、防災などその時々課題について多くの意見をいただきサービスの向上に活かしている。地域柄、高原野菜の収穫期など委員の繁忙期が偏っていることから2ヶ月に1回の開催が難しいこともあるが徐々に回数を増やしており、今年度もすでに2回実施している。	認知症やホームについて地域からの理解を深めていただくために、また支援をいただくためにも運営推進会議は重要です。出席者のスケジュール調整や議題に工夫を加え、概ね2ヶ月に1回開催ができるよう取り組んでいきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、地区役員様の都合の良い日に開催しております。地域柄皆様お忙しく、どうしても全員の方が参加していただけない時もあり、そんな時は「会議録」を提出しています。	市担当部署へは運営推進会議の議事録を提出に行ったりホームの定員に空きができた時に相談するほか、介護認定調査員の来訪を受けるなど協力関係を維持している。市派遣の介護相談員二名の受け入れを2ヶ月に1回行っており、その都度報告も頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が危険箇所を把握し、目配り、気配りで安全を確保しつつ自由に生活して頂ける様な支援を行っています。	日中玄関の施錠はしていない。外出傾向の入居者には本人が納得するまで職員が付き添っている。法人全体で身体拘束に関わる研修を行っており、「身体拘束の排除」を職員共通の方針としている。職員は研修を通じ身体拘束について正しく理解している。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守する様努めています。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで成年後見制度を利用されるご利用者が居なく、十分な理解が出来ていません。毎月行っている菅平グループホームの「認知症勉強会」を利用して勉強して行こうと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用対象者となられた方には、管理者が事前訪問したり、入居体験をしていただいたり、契約の内容について時間をとって説明しています。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、については詳しく説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気作りに努めています。又、介護相談員の訪問もあり、利用者が気軽に外部の方に相談出来る様に配慮しています。	入居者の殆どが意見・要望などを表出できる。入居者家族の来訪も頻繁にあり職員とも顔なじみになっているので家族と話をすることが多い。家族会はないが毎年6月に行われるホームの開設記念日には食事会を行い家族との懇談の機会を設けている。ホームへの信頼感が厚いことから家族よりの意見・要望は比較的少ないが、ホームからの声かけ・働きかけは欠かさず意見・要望などをお聞きするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞く様に心掛けています。日々の会話の中からも感じ取れる様話を良く聞く事に心掛けています。利用者との日常的な関わりの中から生まれる職員の気づきやアイデアは積極的に取り入れています。	毎月月末近くにカンファレンスも兼ねホームの会議が行われ、職員の意見交換が活発に行われている。目標管理制度が導入されており、各職員の年度目標に沿って法人のグループホーム統括リーダーによる職員の個別面談が年度末に行われ振り返りをすると同時に職員の意見や要望も聞いている。ホームの職員も参加する法人内の各種委員会があり、業務の改善につなげている。各職員の資格取得についても法人として奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の努力や実績、悩み等把握する様努めています。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応もしています。職員の資格取得についても勉強会等開いて積極的にバックアップしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議が毎月あり、施設内研修であつたりします。又毎月、グループホーム勉強会を開催したり、菅平グループホームでは、毎月「認知症について」勉強をしています。職員が学ぶ機会を多く作れる様努めています。資格取得の為の勉強会も開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームさんとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上して行く活動や勉強会、ネットワーク作りを行っています。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居対象者となった時には、必ずご本人とご家族に何回かお会いして生活状況や心身の状況、これからどのような生活を希望しているのか、ご希望を聞くなどして安心が得られる様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞く様にしていきます。相談にいらしたご家族様等の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族様の思いや状況を確認し、認知度の状態も考慮し、ご本人のご希望を優先し、入居がまだ相応しくない状態であれば他の必要なサービスにつなげ、その方の生活を支えるような支援を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係ではなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族の様な関係でありたいと思っています。出来る事に着目し、得意な事を楽しみながらやっていただくようにしています。お互いをいたわり合いながら生活されています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ありがたいことに、ご家族様の面会は、どなたも頻回に来ていただいております。その為お年寄りの少しの状態の変化にもご理解があり、急な変化にも直に対応していただけるのはとてもありがたい事だと思っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理容師の方が訪問理容して下さったり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、併設の宅老所に出かけたりと、出来るだけ関わりがもてる様に努力しています。	隣接の宅老所に通ってくる顔なじみの方と話しをしたり、コードレス電話を使い知人等との会話の支援をし、関係を断ち切らないようにしている。自宅に帰ると必ず2泊から3泊くらいする入居者やお盆に帰省したり法事で自宅に戻る方など、木目細かい支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度が高い方、低い方と様々ですが、お互いが助け合い信頼しあっていると思います。ありがたい事に、お年寄り同士が声かけあって助け合う姿には、職員が教えさせて頂く事が沢山あります。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると、疎遠になってしまいがちですが。お亡くなりになられた方のご葬儀や新盆にはお参りさせていただくようにします。また、病院入院長期により退去された方に面会に行ったり、皆で色紙を書き送ります。良い関係が継続出来る様努力していきたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する様にしています。ご家族様からも情報を得る様にしています。	会話に多少の不便を感じていた入居者がホームに慣れるに従い発語もハッキリとし聞き取れるようになってきた。比較的会話が少ない入居者にはゆっくりと話しかけたり、表情、行動から思いや意向を感じ取るようにしている。職員の支援に対して「ありがとう」という入居者からの感謝の気持ちが自然に伝わってくるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった段階に、事前訪問したり担当ケアマネ、ご家族から情報を頂いています。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長ととらえていますので出来るだけ情報の収集に努めています。入居後も機会ある毎にお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	要介護度が高い方、低い方が居ます。出来なくてもやりたい、皆と一緒に同じ事をしたいという気持ちを大切にしています。また、得意な事、楽しんで出来る事に注目し、関わる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させる様にしています。ご本人の意向に副った介護計画にしていきたいと思っています。	入居者や家族の意向を聞き介護計画を作成している。少人数の入居者ということもあり職員は入居者の日々の状況を細かく把握しており、月1回のカンファレンスでは気づきも取り入れ、個別に検討している。3ヶ月に1回の見直しも行ない、現状に合わせた介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来事、食事や水分量、排泄状態の記録を行なう事で、スタッフ間の情報の共有化を図っています。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	菅平高原クリニックとの連携が取れているので、終末期の対応が可能でありご本人やご家族様の意向に副える様に努力しています。又、病院入院時の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力しています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームより早く開所していた「宅老所」との併設となっていますので、地域ボランティアさんの訪問はグループホーム単独でなく「宅老所」さんへの訪問になりそこへ参加する形になります。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧める事はありません。ご本人、ご家族様のご希望に応じて対応しています。病院受診はご家族に協力頂いています。往診に来て頂くケースもあり医療機関との関係を密にしています。また、訪問歯科の往診もあります。	入居前からのかかりつけ医を継続している。協力医による予防接種や検診も行われている。月に1回、協力医療機関の看護師と隣接宅老所の管理者、ホームの管理者が情報交換し、適切な対応を取っている。受診については家族にお願いしているが、緊急入院についてはホーム職員が代行し家族と入院先で落ち合うようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の宅老所Nsや菅平高原クリニックのNsとの連絡会議等で、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。協力医療機関との連携もとれています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞う様にしています。病院側、ご家族様との情報交換や意見交換を行いながら、早期退院に結び付けています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし、同意をいただいています。ご家族様、医師、看護師を交え話し合いを行いご本人やご家族様のご希望やお気持ちに副った方針で支援を行っています。随時状況の変化をお伝えし、相談、意志確認しながら取り組んでいます。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族の意向を伺っており、実際に直面した場合にも同意書を頂いている。今年3月、ご家族の了承を得ながらホームでの初めての看取りを行った。協力医療機関の医師や看護師とは必要時いつでも相談・連絡が可能であり協力体制が整備された中での経験となった。看取りに関しての職員教育も行なわれており混乱はなく、入居者とともにお見送りができた。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、全体会議で救急救命法の講習を受講し対応出来る様にしています。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。また、法人全体で安全委員を置いています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害などの話が出ます。夜間は職員が一人の体制になり非常時の連携には気を付けています。地域の方々にも気にかけていただいています。避難訓練には地域消防団の方、消防署職員の方にも参加していただき協力体制を頂いています。	地元消防団の協力を得て避難訓練を実施している。夜間想定で入居者も参加し、車イス使用の方も玄関先のアプローチを使いスムーズに避難できた。職員他の連絡網を使い通報連絡訓練も年2回実施している。自動火災報知器は開設当初から備え付けられており、スプリンクラーも今年3月に設置され方が一に備えている。常日頃から介護用品や缶詰などを多めに備蓄している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄りを人生の先輩と考え大切に、丁寧な言葉かけに注意しています。スタッフ間でもお互いに注意しあえるようにしています。	法人の個人情報保護方針がホームページにも掲載されている。「入居者の尊厳」や「プライバシー保護」に関しては職員教育が徹底して行なわれており、入居者に関する資料等も2年間保管するようになっている。入居者の方を男性は苗字で、女性は名前で呼んでおり、行動を起こす前に必ず呼びかけを行っている。グループホーム便りへの個人の顔写真の掲載についても家族に説明し承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意志や希望を大切にしています。意志を確認し、希望されない事は無理強いする事のない様になっています。言葉では十分に意志表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えています。お年寄りの希望を最優先する様にしています。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、個別的な関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿い、馴染みの床屋に行けるよう支援しています。個々の生活習慣や好みに合わせる様にしています。いつもきちんとお洗濯がされた衣服で、身だしなみをきちんとしている事がご家族様にとっても嬉しい事と考えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出掛けて、お野菜等選んでいただいています。食事作りも一緒に行き、出来ない方にはお味見をして頂き一緒に参加している雰囲気作りを行っています。片付け等を共に行ったりしています。職員とお年寄りが同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしています。	前もつての献立表は作成されていない。冷蔵庫の中身を確認し入居者と一緒にお買い出しに出たり、隣接の宅老所の畑で獲れた野菜などでメニューを考えている。実際食したものを記録し重複しないようにしている。入居者が散歩の時に収穫した山菜が食卓に上ることもある。誕生日にはお寿司を取ったり、希望の料理を取り入れている。入居者は職員と同じテーブルで介助してもらいながら同じものを食べている。きざみやトロミをつけるなど入居者にあつた形で調理がされている。入居者も片付けなど出来る範囲で協力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きな物を季節に合った物を楽しめる様配慮しています。体調を崩されたり、レベル低下の為食事が充分摂れない方には、食事チェックを行い情報や気づき、アイデアを出し合い、嗜好品や食べやすい様に工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、毎食後個別に働きかけを行っています。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方には職員が口腔ケアを行っています。また、訪問歯科の指導も行っています。義歯は週2回の義歯洗浄薬につけて消毒を行っています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考にして時間を見計ったり、様子から察知し、トイレ誘導を行っています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせ検討しています。極力ご本人が傷つかない様配慮しています。	約三分の一の入居者は自立している。日中はトイレでの排泄を基本としており、リハビリパンツとパットを使用しながら職員が排泄表を基に声がけている。方が一のためにポータブルトイレを居室に持ち込んでいる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず、十分な水分補給と野菜海藻類中心の食事の提供をしています。買い物に出掛けたり、散歩に出掛けたり、風船パレー等行いと日常生活の中で自然に身体を動かせる様に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間に沿って入浴していただいています。日中、夕食前、等それぞれです。入浴を好まない方に対しては声かけのタイミングや入りたくなるような誘いの工夫をしています。入浴剤も好みに応じて使用しています。	見守りが必要な入居者が若干名いるが自力で入力する方が多い。入浴日は特に決めていないが殆どの入居者が中2日で入浴している。現在入浴を拒む方はおらず、時間帯も本人の希望に沿って午前、午後を割り振っている。夏場でも冷涼な土地柄、シャワーを使わず湯船にゆったりと浸かり楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。眠れない方には、就寝時間にこだわらず、眠くなるまでフロアで温かい飲み物など一緒に飲みながら眠くなるまでお話などして過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を個人台帳に綴じ、内容を把握出来る様にしています。薬袋に飲み忘れの無いよう日付を入れています。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし、協力医療機関との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など負担にならないよう気を配りながらやっています。食事の準備、食後の食器洗い等、ご自分で役割としてやっておられる方も居ます。やっていただいた時には感謝の言葉を伝えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等出来るだけ外出する機会を多く作るようにしています。春にはお花見、千体のお雛様を見に、秋には紅葉を見に、ぶどう狩りにと歩行困難な方でも、戸外に出る事を積極的に支援しています。	通常はホームの敷地内や周辺を散歩している。季節によっては途中でワラビ、フキなどの山菜を採ることもある。食材の買い出しには入居者と職員と一緒にスーパーやコンビニへ出かけている。花見等で遠出をする時、車椅子使用の方が半数ほどいるが、隣接の宅老所の送迎車で出掛けている。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には、ご家族様の了解を得て持って頂いています。必要な時はご自分で払って頂いています。お年寄りがお金を持つことを阻害する事なく、店で希望される物を買ってご自分で支払いをしていただく事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で自室でゆっくり話が出来ます。贈り物が届いた時等、職員から声をかけ電話しやすい雰囲気作りをしています。ご家族や知人からの電話や手紙には、感謝しています。ご希望に応じて自由に電話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、共有フロアーには常にお花を飾るようにしています。また、金魚を飼ってお年寄り、職員の癒し的な存在になっています。また、季節ごとの行事を取り入れています。	建物中央にはテーブルが設置され、窓際にはソファのコーナーがありテレビや金魚の水槽も置かれている。キッチンも広く、調理をしながらも各居室が見渡せるようになっている。天井には大きなシーリングファンがあり山荘を連想させる。二重サッシや床暖房が施されているので寒冷地ながら冬場も快適に過ごすことができる。恵まれた環境の中で入居者は日頃フーセンバレーや新聞たみなどに勤しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に生活をしていただいています、一人で過ごしたい時はご自分の部屋で過ごされています。天気の良い日はテラスに出て外の景色を眺めながら、気の合う同士で日向ぼっこをし、お話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や家具、大切にしていた物等入居時に願っています。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらしゃいますので、相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫しています。	居室入り口には民芸調の飾りが目印として下げられており、小さな字でそれとなく入居者の氏名が記されている。居室ごとにクローゼットと洗面台、エアコンが備え付けられている。入居前に使用されていた小ダンスを居室に配置したり、家族の写真や法人から85歳以上の方に敬老の日に呈上される表彰状などを飾ったりと思ひ思いの居室作りがされている。2つの居室に1つのテラスがあり、万が一の場合には外にすぐ飛び出せる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「何が分かりづらいのか」「どうしたらご自分の力でやっていただけるか」を職員で話し合い対応しています。必要に応じてご家族にも協力していただく事もあります。心身機能の状態の変化に考慮し生活環境の改善にとりくんでいます。		